

5. 院生へのアンケート調査

令和2年1月10日から2月10日の期間、大阪大学の学務情報システムKOANを利用して、言語文化研究科の在学学生を対象にアンケート調査を行った。言語文化研究科が、本研究科の教育研究や設備の充実と改善に資することを目的に実施したものである。アンケート結果は、自由記述の回答も含め、6月以降に言語文化研究科ホームページで見ることが出来る。本研究科は、これまでに4回、ほぼ同一のアンケートを実施し、それぞれの結果を公表してきた。実施時期により、設置されていた専攻や回答数が異なるため、数字を単純に比較することはできないが、目立った点にはコメントを加えた。また、自由記述の回答についても適宜コメントを付した。

I. 質問項目および回答

質問1：：あなた自身のことについてお尋ねします。該当する項目にすべてチェックを入れてください。【複数選択可】

回答番号 回答

- 1 国籍：日本
- 2 国籍：日本以外
- 3 専攻：言語文化
- 4 専攻：言語社会
- 5 専攻：日本語・日本文化
- 6 博士前期課程1年次
- 7 博士前期課程2年次
- 8 博士後期課程1年次
- 9 博士後期課程2年次
- 10 博士後期課程3年次
- 11 その他 0人

<回答>

国籍

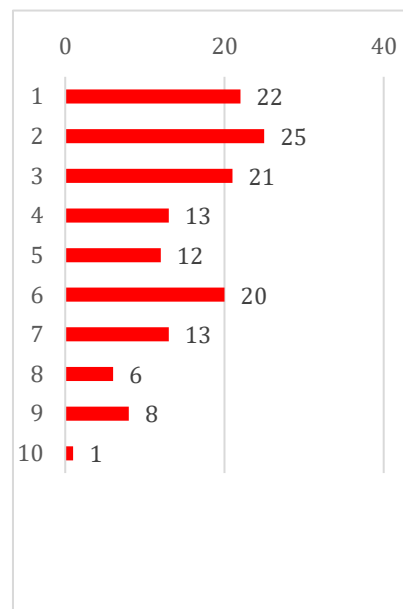
| 日本 | 日本以外 |
|----|------|
| 22 | 25 |

専攻

| 言語文化 | 言語社会 | 日本語・日本文化 |
|------|------|----------|
| 21 | 13 | 12 |

在籍年次

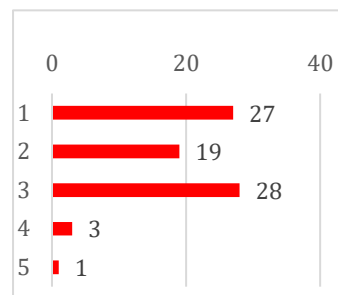
| M1 | M2 | D1 | D2 | D3 | その他 |
|----|----|----|----|----|-----|
| 20 | 13 | 6 | 8 | 1 | 0 |



質問2：言語文化研究科について何で知りましたか。該当する項目にすべてチェックを入れてください。【複数選択可】

回答番号 回答

- 1 所属大学・大学院の教員
- 2 先輩・知人
- 3 言語文化研究科ウェブサイト
- 4 大学院紹介誌
- 5 その他



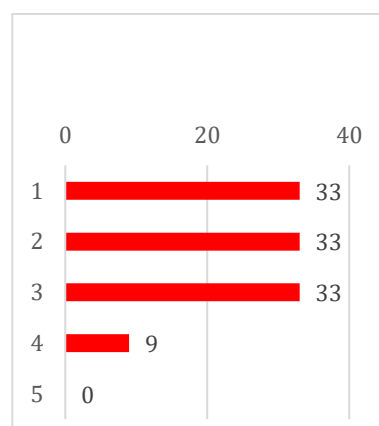
<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|----|---|---|
| 回答数 | 27 | 19 | 28 | 3 | 1 |

質問3：言語文化研究科入学を希望した理由は何ですか。該当する項目にすべてチェックを入れてください。【複数選択可】

回答番号 回答

- 1 言語文化学あるいは日本語・日本文化を研究したかったから
- 2 研究指導を受けたい教員がいるから
- 3 修士や博士の学位を取りたかったから
- 4 就職に役立つと思われたから
- 5 その他



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|----|---|---|
| 回答数 | 33 | 33 | 33 | 9 | 0 |

<コメント：回答数の1位、2位、3位の順位は、9年前、6年前、3年前が回答番号の1-3-2-4の順でしたが、今回は1から3までが同数でした。>

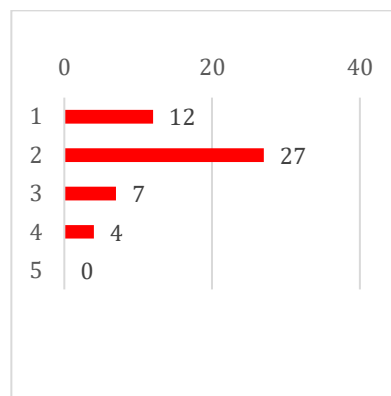
質問4：上の質問3で「5 その他」にチェックを入れた場合にはそれを具体的にお書きください。【記述式400文字以内】

(該当者なし)

質問5：開講されている授業科目の種類や数は十分だと思いますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強く思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 12 | 27 | 7 | 4 | 0 |

<コメント：「どちらともいえない」以上の割合は、9年前が75%、6年前が79%、3年前が88%、今回が92%と向上してきただけではなく、回答番号1の回答者が、9年前が4人、6年前が2人、3年前が6人、そして今回が12人とかなり増加しました。「そう思わない」と「全くそう思わない」の回答者が希望する種類の授業は、次の記述式の回答にあります。>

質問6：上の質問5で「そう思わない」「全くそう思わない」の場合、どのような種類の授業の開講を希望しますか。【記述式400文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

- (1) SLAなど英語教育の授業
- (2) 言語学も含めると興味のある科目は多いが、英語教育専門の科目が少ない。
- (3) 細分化された分野一つ一つにフォーカスしている感があり、他分野の学生が受講ができないほど専門性が高い

(言語社会専攻)

- (4) (自分の専門の) 文学系の授業が、言語社会専攻 中でもう少し充実しているとよい。
(言語社会専攻自体、文学がご専門の先生は少ないので仕方ないですが)
- (日本語・日本文化専攻)
- (5) 文学の授業を増やしてほしい

<コメント：>

(言語文化専攻)

言語文化専攻では2021年4月に講座再編を行い、第二言語教育関係の授業を充実します。外国語教員を目指す方、あるいは中高の外国語教員の方のリカレント教育に大いに資すると思えます。また、講座再編では、より横断的なカリキュラム体系を目指しています。

(言語社会専攻)

言語社会専攻では毎年、様々な言語による文学研究者によるリレー講義「世界文学」を開講しており、世界の文学の諸相に関する概説とともに、各教員の専門分野に基づいた文学解説を行っています。今後はこの講義を副プログラムとして発展させる予定となっています。

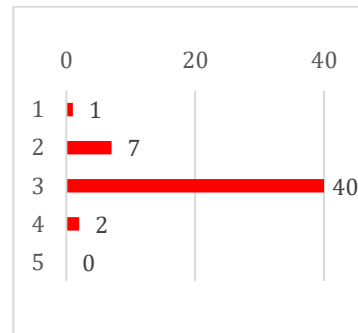
(日本語・日本文化専攻)

全体のバランスを見ながら、提供科目を充実させてまいります。>

質問7：現在所属している課程の修了要件単位数はどう思いますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 多い
- 2 やや多い
- 3 ちょうどよい
- 4 やや少ない
- 5 少ない



<回答>

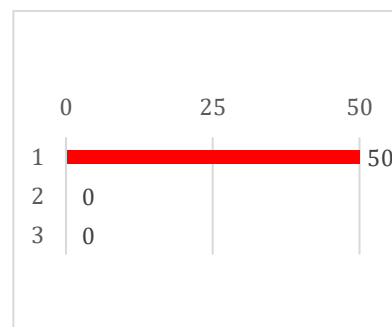
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|---|---|----|---|---|
| 回答数 | 1 | 7 | 40 | 2 | 0 |

<コメント：回答者の80%が、修了要件単位数は「ちょうどよい」と答えています。>

質問8：あなたは熱心に授業に出席していますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 ほとんど出席している
- 2 まあまあ出席している
- 3 あまり出席していない



<回答>

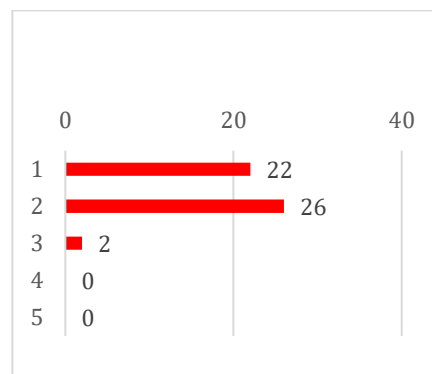
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 |
|------|----|---|---|
| 回答数 | 50 | 0 | 0 |

<コメント：100%の回答者が「ほとんど出席している」と答えています。>

質問9：授業内容はシラバスに書かれていたとおりの内容でしたか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

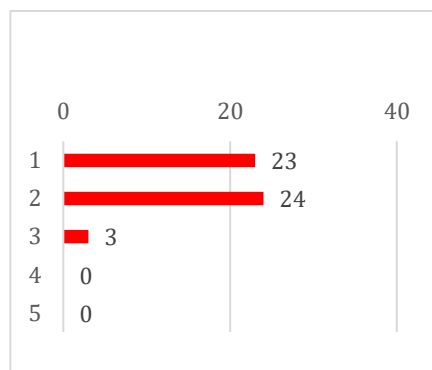
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 22 | 26 | 2 | 0 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、9年前が73%、6年前が77%、3年前が84%、今回が98%と、かなり改善されてきています。>

質問10：全体として授業内容に満足していますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

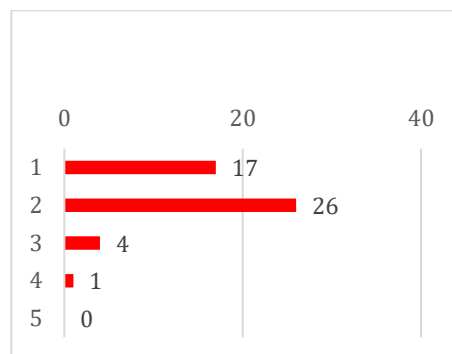
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 23 | 24 | 3 | 0 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、9年前が67%、6年前が81%、3年前が88%、今回が94%です。授業内容に対する満足度もかなり向上していることがうかがえます。>

質問11：研究や論文の指導体制に全体として満足していますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

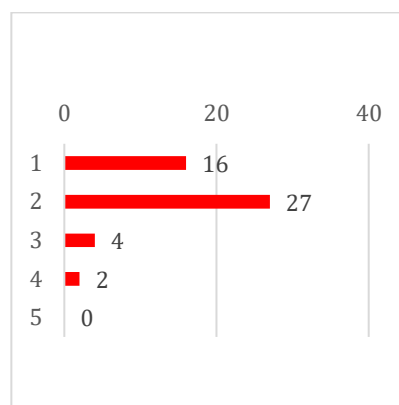
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 17 | 26 | 4 | 1 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、9年前が73%、6年前が72%、3年前が80%、今回が90%です。指導体制に対する満足度もかなり良好な状況にあるといえます。>

質問12：：修士論文や博士論文の中間発表会・報告会等の回数や時期は適切だと思いますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

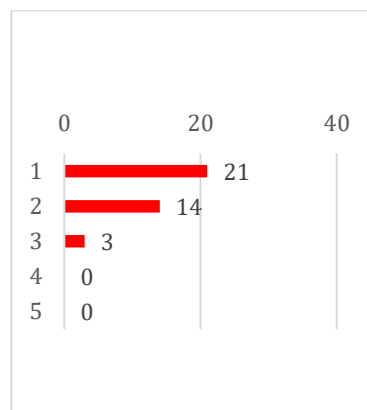
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 16 | 27 | 4 | 2 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は88%で、前回より17%上昇しました。>

質問13：全学共通教育あるいは外国語学部TAの経験者にお尋ねします。TAの経験は有益でしたか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

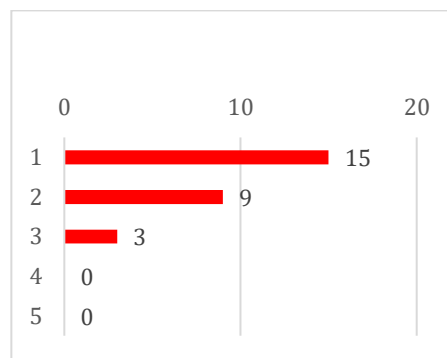
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 21 | 14 | 3 | 0 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は92%で、前回より8%上昇しました。全学共通教育や外国語学部でのTAの経験が院生にとってますます有益と捉えられてきていることが分かります。>

質問14：本研究科TA経験者にお尋ねします。TAの経験は有益でしたか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

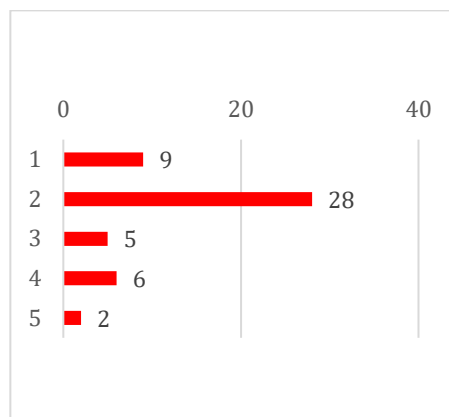
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|---|---|---|---|
| 回答数 | 15 | 9 | 3 | 0 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は89%で、前回より5%上昇しました。研究科授業のTA経験も、高い比率で有益と捉えられていることがうかがえます>

質問15：所属する専攻について、図書設備や図書の質・量に満足していますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|---|----|---|---|---|
| 回答数 | 9 | 28 | 5 | 6 | 2 |

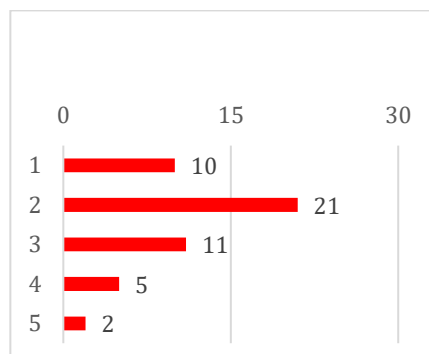
<コメント：「どちらともいえない」以上の数値は前回の66%からかなり改善して84%でした。良好な結果ですが、「全くそう思わない」との回答が2人あり、図書関係の改善に向けての検討を行いたいと思います。>

質問16：所属する専攻について、研究設備・機器の運用などについて満足していますか。

【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|----|---|---|
| 回答数 | 10 | 21 | 11 | 5 | 2 |

<コメント：「どちらともいえない」以上の数値は、前々回が71%、前回は82%、今回は86%です。良好な結果ですが、「全くそう思わない」との回答が2人あり、図書関係と同様、研究設備・機器関係の改善に向けての検討をいたします。「そう思わない」と「全くそう思わない」の回答者が希望する種類の設備・機器は、次の記述式の回答にあります。>

質問17：上の質問16で「4 そう思わない」「5 全くそう思わない」にチェックされた場合、どのような設備・機器の運用や設置を希望しますか。【記述式400文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

- (1) スキャナーの増加
- (2) 自身のデバイスとプリンターの接続を可能にする
(言語社会専攻)
- (3) 院生室のパソコンでワードが使用できるとより良いと考えます。また、コンセントの数が増えれば、持ち込みのパソコンで作業を進めることができます。そのほかの環境については満足しています。
- (4) 大学院生室が非常に使いづらいです。言語社会専攻と日本語専攻の学生が合同で使用しており、留学生も多いため、よく言えばとてもグローバルな環境です。しかし、裏を返せば、日本人的な感覚（静か、清潔、無臭、物品管理が整然としている）が通用しにくく、私の場合はとくに騒音が気になります。言語社会専攻の学生は、お互いに繋がりがなく学部時代の知り合い数人と一緒にいる、あるいは孤独に研究している方が多い一方、日本語専攻の学生はゼミ単位でワイワイやっていることが多いので、少しイラッとしてしまいます。
(日本語・日本文化専攻)
- (5) 日本人の大学院生がカラーコピーや印刷ができる設備がない。（白黒コピーしかできない）
- (6) pdfスキャナーや印刷機を希望します。

<コメント：

(言語文化専攻)

年に2度、言語文化専攻執行部と院生会役員は教育研究のための設備についての話し合いの場を持ち、その時出された要望については予算の許す限り、共用の機器や備品を中心に購入・改修しています。今後とも院生の皆さんからの要望にできるだけ応えられるように努力していきたいと考えています。

(言語社会専攻)

院生室は研究を深化するための空間であり、その静謐さが確保されるべきところではありますが、同時に、異なる専門分野の院生間の情報交換の場としても意義も持っているものです。限度をわきまえた研究空間の維持は、院生同士の話し合いも含めて維持していければと思います。

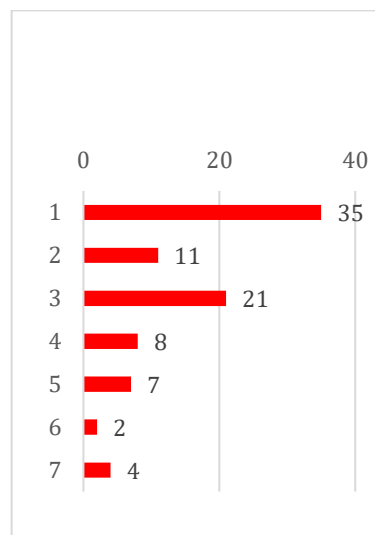
(日本語・日本文化専攻)

言語社会専攻と日本語・日本文化専攻の執行部と院生協議会の代表学生とで定期的に話し合い、現状の課題や要望を聞き、可能な限り応えるようにしてきています。院生の研究環境を整えられるよう、今後もコミュニケーションを十分取っていききたいと考えています。>

質問18：修了後の進路として、どのような職種を考えていますか。希望するものを3つ以内でお答えください。【複数選択可】

回答番号 回答

- 1 大学・短大・高専などの高等教育機関
- 2 小・中・高校などの初等中等教育機関
- 3 一般企業
- 4 国連関連機関
- 5 公務員
- 6 ジャーナリスト
- 7 その他（進学等）



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|------|----|----|----|---|---|---|---|
| 回答数 | 35 | 11 | 21 | 8 | 7 | 2 | 4 |

<コメント：1位「大学・短大・高専などの高等教育機関」、2位「一般企業」、3位「小・中・高校などの初等中等教育機関」の順位は前々回、前回と同じです。この傾向は今後も続くものと思われます。>

質問19：上の質問18で「7 その他」にチェックを入れた場合にはそれを具体的にお書きください。【記述式400文字以内】

<回答>

（言語文化専攻）

- (1) 日本語教育に関する語学学校
（言語社会専攻）
- (2) 政党職員
（専攻無回答）
- (3) 日本語教育機関

質問20：本研究科の教育研究面、設備面に関してお気づきのことがあれば、以下に自由に記述してください。【記述式400文字以内】

<回答>

（言語文化専攻）

- (1) 英語教員の専修免許取得に必要な単位数が多いので、それに当たる授業をもう少し増やして欲しい。
- (2) ロビーで座れる場所と自動販売機があったら便利だと思います。
- (3) 指導教員の先生方により、指導方法や充実さに大きな差があるように聞いておりますが、個人的には大変満足しています。設備面は、PC使用環境が不便と言えば不便です。

（言語社会専攻）

- (4) 豊中言文と箕面言社のつながりをもっと強くしてほしい。特に、専修免許状の課程

は、言社に英語教育論などが無い分、研究科全体で単位をそろえても申請できるようにしてほしい。また、言文学会、言社学会も別組織として動いていて、言文と言社が同じ研究科であるように思えないほどで、もったいないと思う。

(日本語・日本文化専攻)

- (5) 具体的な設備ではありませんが、論文の取り寄せや学会費など研究に関わる諸費用が自費であるため、研究活動に大きな制限があります。大学には、この点の改善を希望します。
- (6) 研究科の問題ではないとは思いますが、0時に閉門してしまうのは不便です。
(専攻無回答)
- (7) 集団指導体制が取れていないことがある。

<コメント:

(言語文化専攻)

英語教員の専修免許取得に必要な「教科に関する専門科目」の数は少ないとは思いますが、分野に偏りがあるかもしれませんので、検討いたします。また、可能な範囲で言語文化専攻での教育研究の環境向上に努めていきます。

(言語社会専攻)

言語社会専攻と文学研究科の学生は、「大阪大学アジア研究会」と称して、分野横断的に学生と複数の教員が参加して毎週合同ゼミを開催し、著名な先行研究を講読したり、院生の研究発表を開催するなどの活動を行っています。今後、言語面でも同様の講義が開催される予定です。

(日本語・日本文化専攻)

院生の皆さんの意見に基づき、研究科あるいは日本語・日本文化専攻の所掌範囲内で、できるだけ研究環境の改善や、院生への経済的負担の削減に可能な範囲で工夫するよう努めていきます。

(専攻無回答)

集団指導体制は言語文化専攻の重要な指導方針なので、FD等を通じてその体制を向上させていきます。>

6. 修了生へのアンケート調査

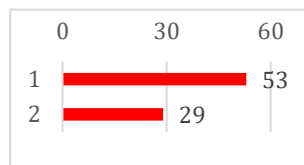
院生へのアンケートに合わせ、令和2年1月10日から2月10日の期間、インターネット上に設けたサイトで修了生に対するアンケートを行った。院生アンケートと同様、言語文化研究科が、研究科の教育研究や設備の充実と改善に資することを目的として実施したものである。アンケート結果は、自由記述の回答も含め、6月以降に言語文化研究科ホームページで見ることができる。本研究科は、9年前、6年前、3年前にも、ほぼ同一のアンケートを実施した。これらの調査結果の比較、また自由記述の回答について適宜コメントを付した。

I. 質問項目及び回答

問1-A: あなた自身のことについてお尋ねします。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 国籍：日本
- 2 国籍：日本以外



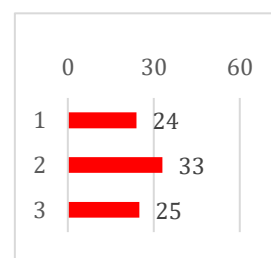
国籍

| 日本 | 日本以外 |
|----|------|
| 53 | 29 |

問1-B：あなた自身のことについてお尋ねします。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 在籍した専攻：言語文化
- 2 在籍した専攻：言語社会
- 3 在籍した専攻：日本語・日本文化



在籍した専攻

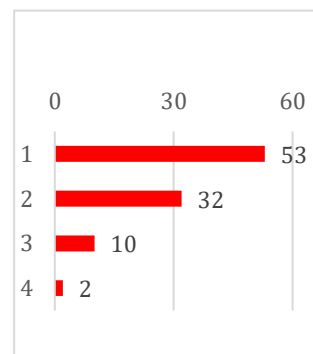
| 言語文化 | 言語社会 | 日本語・日本文化 |
|------|------|----------|
| 24 | 33 | 25 |

問1-C：あなた自身のことについてお尋ねします。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 本研究科の博士前期課程修了
- 2 本研究科の博士後期課程修了
- 3 本研究科の博士後期課程退学
- 4 その他（特別研究学生、特別聴講学生、研究生）

<回答>



本研究科在籍歴

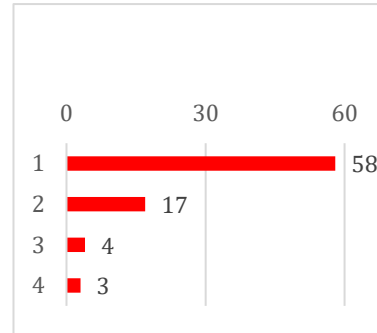
| | |
|-------------|----|
| 博士前期課程修了 | 53 |
| 博士後期課程修了 | 32 |
| 博士後期課程退学 | 10 |
| その他（特別研究学生、 | 2 |

| | |
|-------------|--|
| 特別聴講学生、研究生) | |
|-------------|--|

問2：本研究科における在籍期間終了後の年数をお尋ねします。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 0～5年
- 2 6～10年
- 3 11～15年
- 4 16年～



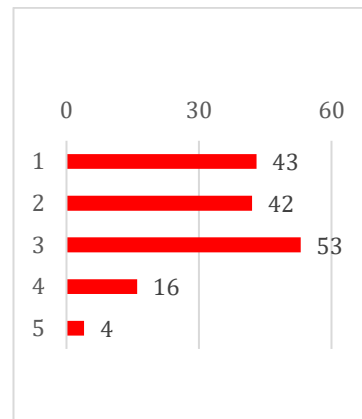
<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|------|----|----|---|---|
| 回答数 | 58 | 17 | 4 | 3 |

問3：言語文化研究科入学を希望した理由は何ですか。該当する項目にすべてチェックを入れてください。（複数回答可）

回答番号 回答

- 1 言語文化を研究したかったから
- 2 研究指導を受けたい教員がいるから
- 3 修士や博士の学位を取りたかったから
- 4 就職に役立つと思われたから
- 5 その他



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|----|----|---|
| 回答数 | 43 | 42 | 53 | 16 | 4 |

<コメント：過去3回のアンケートと大きく違う点は、「1. 言語文化を研究したかったから」と「2. 研究指導を受けたい教員がいるから」の差がなくなったことです。前回までは回答番号1の方がかなり上回っていました。言語文化の教員の知名度が高まったのだと思います。>

問4：上の問3で「5 その他」にチェックを入れた場合にはそれを具体的にお書きください。

【記述式400文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

- (1) 長年興味を抱いてきた分野について探求したかったから
- (2) 研究したい内容のコースがあったから
- (3) 博士号を取得すれば、必ず昇進できると思ったから。

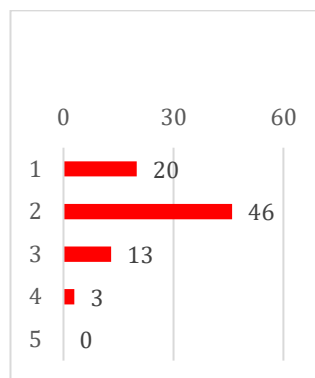
(言語社会専攻)

- (4) 英語教員リカレントコースがあり、専修免許の取得が可能だったから

問5：開講されていた授業科目の種類や数は十分だったと思いますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|----|---|---|
| 回答数 | 20 | 46 | 13 | 3 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、9年前が41%、6年前が73%、3年前が68%、今回が80%でした。「そう思わない」と「全くそう思わない」の回答者が希望する種類の授業は、次の記述式の回答にあります。>

問6：上の問5で「そう思わない」「全くそう思わない」にチェックを入れた場合には、どのような種類の授業が開講されていたらよかったですか。【記述式400文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

- (1) 受講した授業に関しては満足している。希少言語やラテン語などの古典語を、他学部や他大学で学び、単位が認定される機会があればさらによかった。
- (2) その時日中対照研究および中国語学を専攻としていましたので、言文の中ではそのような科目がなさそうでした。でも、今はそのような科目が設置されていると前聞いたことがあります。
- (3) フィールドワークとか、調査・実験とか、クリティカルリーディングとか
- (4) 統計学に関する講義がなかった。自力または独力でなんとかするしかなかったのが残念だった。
- (5) アジア関係の語学や政治文化に関する授業
- (6) 研究テーマが明確な院生には時間を取られたくない授業もありました。

(言語社会専攻)

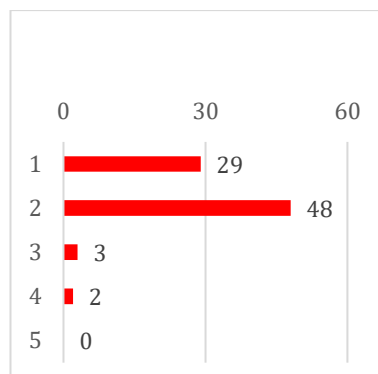
- (7) 少人数もしくは個別で研究したい事例などを担当教官とじっくり教授いただけた為

- (8) 専攻語の授業は十分にあったが、世界の文学など、共通の授業のレパトリーが少なかったことを記憶している。
- (9) 箕面キャンパスで履修できる言語学に関する授業が少なかった
- (10) 英語教育について授業があれば、有り難かったと感じます。
(日本語・日本文化専攻)
- (11) 教育法、日本語通訳翻訳演習
- (12) コーパスを使った研究方法などの科目がなかった。
- (13) 日本文化についての授業を増やして欲しい
- (14) 日本語教育学に関する授業など
- (15) 現代日本社会

問7：全体として授業内容に満足していましたか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

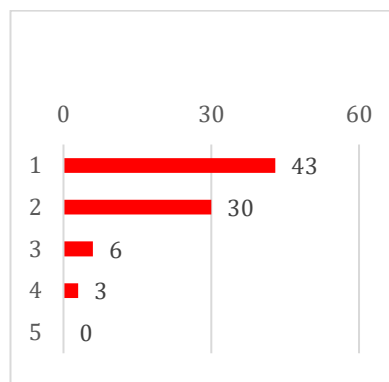
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 29 | 48 | 3 | 2 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、9年前が59%、6年前が78%、3年前が79%、今回が94%で、かなりの高評価を受けました。>

問8：研究や論文の指導体制に全体として満足していましたか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

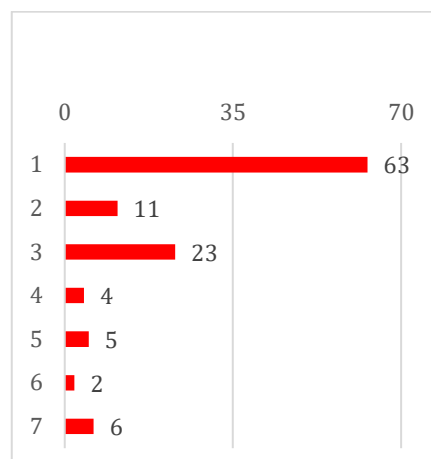
| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 43 | 30 | 6 | 3 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は87%で、前回の75%よりかなり向上しました。>

問9：修了後の就職先として、どのような職種を考えていましたか。希望していたものを3つ以内でお答えください。【複数選択可】

回答番号 回答

- 1 大学・短大・高専などの高等教育機関
- 2 小・中・高校などの初等中等教育機関
- 3 一般企業
- 4 国連関連機関
- 5 公務員
- 6 ジャーナリスト
- 7 その他



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|------|----|----|----|---|---|---|---|
| 回答数 | 63 | 11 | 23 | 4 | 5 | 2 | 6 |

<コメント：就職先の希望は、前回、前々回と同じ傾向です。>

問10：上の問9で「7 その他」を選ばれた場合にはその内容を具体的にお書きください。

<回答>

(言語文化専攻)

(1) すでに職業を持っていたから。

(言語社会専攻)

(2) 就職は考えていなかった

(3) 博士後期課程進学

(4) 決めていなかった

(日本語・日本文化)

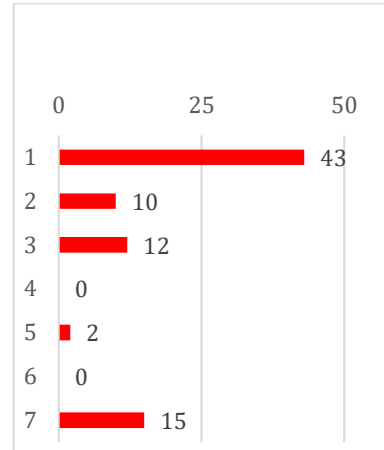
(5) 通訳翻訳

(6) 進学しました。

問11：（お差し支えなければご回答ください。）現在、どのような職種に就いておられますか。

回答番号 回答

- 1 大学・短大・高専などの高等教育機関
- 2 小・中・高校などの初等中等教育機関
- 3 一般企業
- 4 国連関連機関
- 5 公務員
- 6 ジャーナリスト
- 7 その他



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|------|----|----|----|---|---|---|----|
| 回答数 | 43 | 10 | 12 | 0 | 2 | 0 | 15 |

<コメント：「大学・短大・高専などの高等教育機関」が多いのはこれまでと同様です。今回は「小・中・高校などの初等中等教育機関」の回答者も少なくないことが目立ちます。>

問12：上の問11で「7 その他」を選ばれた場合、（お差し支えなければ）具体的にお書きください。【記述式】

<回答>

（言語文化専攻）

(1) 日本国外の大学での博士課程在籍大学院生

（言語社会専攻）

(2) 今台湾にいますけど、台湾の生活には慣れていません。一日も早く日本へ戻って日本で就職したいです。

(3) 個人事業主

(4) 博士後期課程在学中

(5) 博士後期課程在籍中

(6) 大阪大学文学研究科博士後期課程

(7) 大学事務

（日本語・日本文化専攻）

(8) 博士後期課程在学中

(9) 一般企業の社内研修

(10) 日本語学校の事務員

(11) 進学しました。

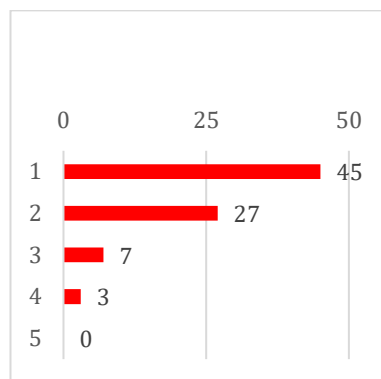
(12) 現在就活中

(13) 博士後期課程進学中

問13：本研究科で学んだことが現在役に立っていますか。【1つ選択してください。】

回答番号 回答

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

| 回答番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------|----|----|---|---|---|
| 回答数 | 45 | 27 | 7 | 3 | 0 |

<コメント：「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、9年前が67%、6年前が86%、3年前が76%、今回が88%でした。3年前に比べて12%改善しています。>

問14：上の問13で「1 強くそう思う」「2 そう思う」を選ばれた場合にはどのような点で役に立っているかを具体的にお書きください。【記述式400文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

- (1) 博士号を取得できたからこそ、現在の職につけていると思っているから
- (2) 大阪大学の教育を受け、学位を授与された事が、言説の信用の一つになっているから。
- (3) 素晴らしい指導教員に出会い、研究者・教育者としての姿勢を学ぶことができた。また本研究科のアイデンティティである「グローバル」マインドを持った研究者になることができたと思う。
- (4) 指導教官から教わった研究の仕方は役に立っていると思います。
- (5) 言語コミュニケーションの諸相について、独学では得られないようなビジョンを得ることができた。考え方の異なる先生がそれぞれ熱く指導して下さることで、受け取る側(つまり学生)は苦しいこともあるが、長期的には自分の壁が崩れ、自分なりのビジョンを構築することができたと思う。また、基本文献をしっかり読む授業もあり、研究をしていく上での基礎が作られたということが自信となり、その自信は、文字情報を冷静に理解しなければいけないという姿勢と、自分の考えを述べるべき時の精神的よりどころにもなっていると思う。
- (6) 自身の研究以外で、言語にまつわる色々な分野、テーマについて、授業や研究生同士で学んだりやりとりしたことが、仕事場面でも生きていると感じる
- (7) 教授に昇進できた。科学研究費を取得できた。母校である阪大で非常勤講師として使ってもらっている。所属先の教育機関より研究図書出版費や研究成果発信のためのwebsite解説費を取得できた。国内外の学会でのworkshop開催など、阪大で学位を取得させて頂いたことを深く感謝し、誇りに感じております。
- (8) 現在、国内外の高等教育を研究対象としているが、言語文化に関して多様な知識、視点を得ることが出来たことが役立っている。
- (9) その専門を教える立場になったから。
- (10) 学んだ分野の専門家として働いているため、全てにおいて役立っています。ただし、学んだことが「役立っている」ことが重要なことであるかは疑問です(阪大は問13, 問14

を重視するような大学であってほしくない、という意味です)。

- (11) 授業内容、授業やゼミの方法、指導方法、TAやチューターを担当させていただいた経験など院生時代のことすべて。仕事をする上で、何かあると院生時代の経験を思い出して参考にしたり、基準にしたり、役に立っております。
- (12) 英語科教諭として、言語を分析する視点、言語を通して見えるものを生徒に伝えるときに役立っています。
- (13) 高校で教えていますが、単に高校の内容だけでなく、本研究科で学んだことを踏まえて論理的な説明が可能であり、生徒にとっても理解がしやすくなっていると思われています。
- (14) 論文作成や研究発表のコツを丁寧に指導してもらえたから留学するための知識と経験を得ることができた。
- (15) 英語教材を作成したり、その他独自の研究をしたりするときに、参考文献の読み方などが大いに役立っています。
- (16) 研究分野における高度な専門知識は現在の職場でも非常に重要であり、研究科で学んだことが大いに活かしている。

(言語社会専攻)

- (17) 専攻した言語を教える授業を非常勤で持たせてもらっているの。
- (18) 新たな人脈を得ることができました。
- (19) 大学院では研究のいろはを学び、今の研究活動につながっているから。レポート・論文の作成を学生に指導する際など。また、身に着けた語学力が留学生の指導、対応などに役に立っていると感じる。
- (20) 音声学などで、教科書に載っているよりも新しい、最新の研究結果を詳細に学生に教えてあげられる点。
- (21) 実際にビジネスとは関係のない場所でも関連した話題になり、会話や交流が発展した場面が多くあったので。
- (22) 日本語教授法、社会言語学、日本文化などの日本語教師が知るべきすべてのことを学ぶことが出来ました。
- (23) 論文投稿、文章作成等
- (24) 院生室内の業務や研究発表会の運営を行うことが、現在の業務において学会の運営の際に役立っていると思います。また、院生時代に海外に多く行く機会があったことにより、海外出張・海外サテライトキャンパスでの業務・海外学会への応募などに対する精神的なハードルが低くなり、積極的に関わることができるようになったと思います。
- (25) 研究で培われた情報収集力、検討能力
- (26) 博士後期課程での研究に役立っている
- (27) 1. 専門と関わる講義科目を担当している点 2. 専門として学んだ知識を活用して、学内行政や教育活動を行っている点
- (28) コーパスの使い方がわかり、仕事で使っている教材を深く調べることができるようになった。
- (29) 今の仕事につながっている
- (30) 外国語学部で学んだことと合わせて、専門的なことは無論、語学力が役立った。特に博士前期課程においては、同級生のほとんどが中国人ということもあり、日本に居ながら、専門的话题について中国語で表現する機会が多く、無意識に語学力がつけられた。その後博士後期課程に進学してからも、他の学生と違い、言語面での不安がなくなったということは、他の学部や研究科ではなく、外国語学部・言語社会専攻で学んだことによる大きなメリットとなった。
- (31) 修了後の人事異動で、国立大附属校へ呼ばれる形で異動したから。
- (32) 交渉に役に立っている
- (33) 多様な考え方や多角的な視点を生徒に持たせるよう意識した授業ができるから
- (34) 日本語教育、日本語学における基礎知識を得たことで、実際の日本語授業の実践の場で

役に立っています。また、様々な視点を持って研究することについて学べたことは、新しい研究を進めて行く上で役に立っていると思います。

- (35) 研究するということがどういうことかわかった点
(日本語・日本文化)
- (36) 個人研究に役立てています。
- (37) ゼミでの発表、レポート作成等は現職にも役立っています。
- (38) 現在、大学で日本語教育を活かした仕事に就いています。研究を求められる際も、大学院で学んだ研究スキルを活かされます。
- (39) 日系企業に就職しているので、日本文化社会への理解が予想していた以上に必要とされます。また、研究の基礎が仕事に役に立ちます。
- (40) 専門知識を得ることができた、学位を取ることができた、TAやTFとして教育に携わり教育経験を得ることができた
- (41) 日本語学や日本語教育学の知識など。
- (42) やりたかった研究が博士後期課程中にやることができ、博士後期課程修了後(博士号)、すぐに大学で常勤のポストに就職できたから。
- (43) 日本語教育に携わっているため
- (44) 博士課程の研究
- (45) 学んだことを活かす環境で働けているため
- (46) 授業を行う際に、外国語学習上の問題点を解決するために、どのようなことを教えるべきか、学んできたことや指導していただいたことを生かすことができる。
- (47) 現在の仕事に活かしていますから。
- (48) 中間発表といった研究の発表をしてきましたから、今学会で発表すること自信があります。専攻以外の授業をうけて、人文学とくに「日本学」の基礎を築いたと思います。様々な国の人と交流していたことは、現在外国人の接待に役立っています。
- (49) 個人指導の授業制度はとても役に立つ

<コメント :

(言語文化専攻)

学位を授与されたことが教育や研究のキャリアに役立ったというご意見が何人かの方から寄せられております。また、言語文化専攻で学び研究したことが、その後の研究や教育に役立ったということや、視野を広げることができたというご意見もいただきました。そのようにキャリア、及びその後のご自身の教育職・研究職に役立ったとお聞きするのは、研究科の教員として非常にうれしいことです。これからもそのようなご意見が寄せられるように言語文化専攻の教育研究の質を向上させていきたいと思っております。

(言語社会専攻)

本専攻で培った研究力が生かされているというご意見が多く寄せられています。特に、最新の研究状況をふまえた授業を通して向上させた専攻した言語の運用能力によって修了後の社会活動に生かされているなど、研究力のみならず、実践的な能力を体得できたというご意見は、高度な言語運用能力の涵養を目的としている本専攻にとっては大変うれしいことであり、今後もさらに発展させていきたいと思っております。

(日本語・日本文化専攻)

学位を取得し、本専攻で培った日本語・日本文化関係の専門知識や優れた研究力、広い視野を生かして、国内外で高等教育機関や企業でキャリアを形成し活躍しておられるという満足の声を多くいただいております。博士号取得後すぐに日本語教育関係の大学の常勤ポストに

就くことができた人も毎年いて、大変ありがたいことです。後輩を育てるような教育研究職につく人も増えていて頼もしく思います。>

問15：本研究科の教育研究面、設備面に関してお気づきのことがあれば、以下に自由に記述してください。【記述式400文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

- (1) 指導教官が自身の専門と全く異なる教員に割り振られたため、研究指導が形式的な面にとどまり、内容面の深い指導が受けられなかったことが院生時代はつらく感じられたので、今の院生も同じように感じている人がいるのではないかと思う。リサーチメソッドそのものについて深く学べる授業がほしかった。
- (2) 製本機が欲しかった事を記憶しております。学生、教員が自由に一定数の冊子を作れば、研究が格段に進むと思えます。
- (3) 自分の経験から言って、ティーチングアシスタントは時間の無駄であり、不要だと思います。
- (4) 設備面に関して、言文では、院生用の大きい研究室やパソコン室がありましたので、その時は不都合なく研究生活を過ごしていました。教育研究面について、院生の6年間、運が良く良い指導教官たちに恵まれました。一方、指導教官への対応に非常に悩んでいる他の院生もいました。指導の先生によってかなり状況が変わることはその時分かりました。
- (5) 現在の状況は、自分がいたときとかなり違うと思うので特にありません。
- (6) 修了したので個人的に学生として使うことはありませんが現在工事の言文の新しい設備や建物に期待しております。収集したデータを仮説検証のためにどのように統計学を使うのか、個々のケースに沿って相談できるセンターや窓口（が海外の大学にはありません）があれば良いと思えます。
- (7) 設備は十分とは言えない。研究スペースの確保など。
- (8) 現在、後輩たち（大学院生）と定期的に研究会を開いております。そうした時に、我々修了生であっても、気軽に（空いている）教室を研究会等に利用できるようにしていただければ助かります（セキュリティ上難しいかもしれませんが、一応、要望として）。
- (9) 設備面では、全体的に問題なく過ごせました。特に、ある院生会が大掃除をしてくれたので、院生室の本が整理されてそれがとても良かったです。院生会の役割は大きいと思えます。

(言語社会専攻)

- (10) 1 国費留学生が多いためか、国費留学生に対する指導が第一に置かれている印象を持ちました。 2 海外の大学では、質的・量的な調査のサポートをする専任スタッフがいるそうです。日本学もそのようなサポートがあるといいのではないかと思います。
- (11) 院生室はあるが人が多く集中できない。個人で作業等できるスペースがほしい。それから、冬が非常に寒く、空調が効かない。
- (12) 日本国籍の学生だが、コピーするにはコピーカードを買わなければならない、コピーカードがあっても、印刷室に印刷用紙が配備されておらずいざというとき困るなど、とにかく印刷コピー関係は不自由だった。授業や学会発表のレジュメを必要枚数準備しなくてはいけないが、そのたびに残りの上限枚数を数えながら行っていた。コピーカードはいつでもすぐ買えるわけではないので余裕を持たせて購入しておいたが、修了後に返金できるわけでもなく手元にある。それに対して箕面キャンパスE棟の留学生しか入れない部屋では、コピーし放題の機械が置いてあり、予算元の関係もあるのだろうが、逆不平等を感じていた。これは、留学生はずるいから特権をなくせという話ではなく、日本人

院生も安心して研究のための印刷やコピーができた方が研究が捗るのではないかという話である。京都大学の大学院でも印刷コピーは無制限らしいので(兄談)、阪大も頑張ってもらいたい。

- (13) 金銭的な面での補助などがもう少しあればより良かったと感じています。またそのような告知があまり届いてない側面もありましたのでその点を今後の研究生に活かしていただければと思います。
- (14) 人数が少ない分、手厚い指導があったことはよかったが、院生用の部屋も少なく、授業以外の研究時間にあまり居場所がないと感じた。図書館はとても良かったのでキャンパスが移転してからも(孤独な院生でも研究に集中できる)その雰囲気は変わらなければ良いと思う。院で勉強中は学部生の時とは別の緊張感やしんどさがあったので、研究をやりきるためにも、行く気の起きる図書館にして欲しいと卒業生として強く願う。公立図書館と大学図書館はそもそも性格が異なるので両立は問題が山積していると理解するが、市民が本を借りていて読めない、や邪魔となる行為をされる等(在籍時に一般の方にキャンパスでセクハラのような質問を受けたこともあったため)は予防して欲しい。
- (15) 特に不便だと思えることはなかった。
- (16) キャンパス移転により、箕面キャンパスが豊中キャンパスからそれほど遠くなくなるため、今後の文学研究科等豊中の部局との連携に期待しています。
(日本語・日本文化)
- (17) 日本語日本文化専攻は留学生の方が日本語母語話者より多いが、大学院生が留学生のチューターをする仕組みになっていることについて少し問題があると思った。互いに交流もでき、勉強になって良い面もあるが、自分のレポートや論文提出とチューターの仕事が重なり、負担が大きい。300ページの博士論文のチェックでも上限が30時間で27,000円と言うのも現実的ではなかった。他大学では留学生のチューターを修了生を含む外部に発注しているところもあるので、留学生のサポートを充実させるという観点からも制度の見直しが必要ではないだろうか。また、他大学では有料の制度も存在する。必要に応じて30時間以上であれば有料にするなどの柔軟な仕組みも必要だろう。
- (18) 先生方が本当に学生のことを思ってくれるところは留学生にありがたいことです。院生室がもう少し明るくして、席が十分にあれば、より快適に利用できると思います。
- (19) 院生、特に博士課程の学生の研究をもっとサポートして欲しい。例えば、海外の学会での発表、あるいは研究資料の調査を支援する助成金があれば、研究がもっとしやすくなると思います。
- (20) 新しいキャンパスに移っても今の福利厚生を院生が受けられるようにしていただけたらと思います。
- (21) 同じ日本語教育を学ぶにあたり、文学研究科の授業などがもう少し取りやすいといいと思います。
- (22) 阪大の先生方に丁寧で優しく指導していただいた。各学期における研究進捗発表のおかげで、無事に卒業できた。研究科の教育が学生をサポートすると思う。いい印象を受け、阪大の修了生になったことは誇らしいことである。
- (23) 教員と生徒と交流できる場が多くて、そこで身につけたものが現在研究にも仕事にも非常に役立っています。

<コメント:>

(言語文化専攻)

指導教員を含む教育面、研究環境、設備面での貴重なご指摘、ありがとうございます。それらを真摯に検討していきたいと思えます。ご報告として、言語文化B棟の昨年の耐震改修機能強化工事によりA棟にあった個人研究室をB棟に移し、空いた部屋を院生と教員のグループ研究に使える共同研究室にしました。また2021年4月からの講座再編により、指導体制や

大学院のカリキュラムの見直しを行っています。それにより院生の皆さんの教育研究環境が改善されることを期待しております。

(言語社会専攻)

キャンパスの地理的な問題が複数挙げられていますが、2021年度からは交通の便の良い新キャンパスでの教育・研究活動が継続されます。新キャンパス移転に向かって、現在、企業と連携のもと、言語習得に最適な環境の整備や講義のあり方などを向上させるための議論が進んでいます。研究活動のさらなる発展のために、院生室の環境整備を含めた検討を進め、早急に対応していきます。また、豊中キャンパスとの交流の活性化に向けても、副プログラムの設置や研究会の開催など、院生の皆さんの視野を広げるための授業の開講を予定しており、より多くの研究交流を促進するように努めてまいります。

(日本語・日本文化専攻)

留学生と日本人学生が共に学ぶことで、物事を多面的に見られたり、活気ある議論ができたり、多言語・多文化社会への深い洞察ができたり良いことは多いです。一方で、日本語母語話者である学生に、留学生の日本語・日本文化理解力の向上のための支援をお願いすることも多く、負担感や不公平感が出ないよう、今後も配慮や工夫が必要だと感じています。ほとんどの場合は、学生は出身に関わらず良い人間関係を築き、将来的にも信頼できる人的ネットワークを作っていて、修了後も仕事や研究、人生に関わる情報共有や相互援助のできている事例も耳にしており、嬉しく思っています。>

*末尾ながら、アンケートに回答いただいた院生、修了生の皆さまに御礼申し上げます。また、アンケートの実施と取りまとめにご協力いただいた、先生方、事務方、アルバイトの皆さんに、この場を借りて改めて深謝いたします。